

海南高校 先輩×後輩
野球部 対談



オンライン参加

進学 新潟大学
人文学部

後輩 川崎公輔先輩

出身 海南高校

クラブ 硬式野球部

進学 和歌山大学
教育学部 (新2回生)

先輩 芝一紘先輩

出身 海南高校

クラブ 硬式野球部 (現ACチューター)

進学 公立鳥取環境大学
経営学部

後輩 水崎俊哉先輩

出身 海南高校

クラブ 硬式野球部

志望校を決めた時期と決め手は？

芝 中学生の時に会った先生の影響と、社会科目が好きという気持ちで、将来は教師になりたい、とっていました。高2で和歌山大学について調べたことがきっかけ。文理選択は歴史が好きだったので文系に決めました。

水崎 文理選択の時、色々学部を調べたけど、理系には興味のある学部がなくて文系に。文系の学部では商学部や経営学部に興味を持っていました。

川崎 警察官になりたいとっていて、公務員=法学部、というイメージがあったけど、調べたら他の学部からでもいいける、ということがわかって。高3の夏に興味があるのは心理学、ということに気づき、そこから心理学を学べる大学を調べて、志望校にしました。

テスト期間中の過ごし方は？

芝 テスト発表日から練習が休みになるので、僕はだいたい2-3時間勉強しました。長くて4時間ぐらい。得意科目はクラスでトップを目指してました。数学は…ほんまに苦手なので、なんとか半分はとれるように…。

水崎 僕は学校のワークを何周も覚えるぐらいやって、頭に叩き込んでました。高1の時は、朝4時ぐらいまでやってちょっと寝てから学校に行く、というアホみたいなこともしてましたね(笑)。

川崎 最初の方は、あんまり評定のことは考えてなかったから、まあ50点ぐらい取れたらいいかな、って。『5』とるために75点以上！とかも全然考えてなかったな。

受験勉強を始めたのはいつ頃？

芝 国公立大を受験するために必要な共通の科目について調べたことがあって。好きな日本史も受験で必要ということがわかったので、得意なものから固めておこうかな、と思って、高2から少しずつテスト期間以外でも勉強を始めました。数学はどれだけ頑張っても半分ぐらいしか取れないだろうと思ったから、得意科目で数学をカバーできるように、と思って。そのおかげで、日本史は最後の最後までほとんど時間をかけずに点数が取れていました。

水崎 僕は高2で共通テスト模試を受けたタイミングかな。ちょっとやばいなと思って。数学は頑張って1時間、英語はシス単*を買って。そこまでガチガチにやってたわけじゃないけど、練習が終わって帰る前

にちょっと見るようにしたかな。

芝 えらっ！僕らの学年でその時期、単語帳なんかかばんに入れてるやつ、見たことない！

川崎 俺は引退してから。ターゲット*を買ったのも、夏に勉強会*[ACイベント:夏の大勉強会]に行った後やったな。

夏の大会前は野球に専念？

芝 その時期はもう割り切っていました。1学期の中間テストは頑張って取れる科目で点数取っておいて。成績が下がるのは覚悟してた。最後やし、野球に専念してたな。

水崎 芝さん達先輩からは、夏大前は勉強しなくてもいいように冬の期間にやっつけて言われていて。まだACにも来ていなかったから、家で1時間ぐらいは勉強してたかな。5月末ぐらいまでは、頑張ってたんですけど、6月からは野球に集中しようと思って触らなかったです。

川崎 いや…ほんまになんもしてない、野球しかしてなかった！

アカデミーキャンパスに来てくれたきっかけは？

芝 野球部の先輩からもACの話は聞いていたので、僕は引退してすぐACに来て、受験勉強を始めました。野球が終わってしまったら自分には何も残らない。ちょっとでも勉強できた方が自信も持てるのかなと。その時にはもう和大に行きたいという気持ちがあったので、浪人することになったとしても頑張ってみよう、やれるだけやってみよう、と思って。で、今年は、後輩が引退したタイミングで、僕から「AC来いよ」ってみんなにLINEして(笑)。



水崎 芝さんに言われて来ました(笑)

夏に力を入れたこと。

芝 僕は英語と数学を。英語の基本的な文法はコロナの臨時休校の時に少し復習していたので、久保田先生の授業の復習(ACクラスライブ授業・英語)、ターゲット*、EQ (AC英語基礎力トレーニング講座『English Quest』)を。速く文章を読めるように、速読聴英語も受けていました。数学はチャート*で公式の見直しから。古文単語も覚え始めました。

水崎 僕も英語と数学に力を入れました。数学はチャート*の基本例題をひとつおろり解いて、英語はターゲット*とVintage*を。

川崎 数学を。チャート*の例題を初めから。数I Aは夏休みでひとつおろり解きました。英語はVintage*を。英単語や古文単語は電車通学の時間と、寝る前に見るようにしました。社会は学校の補習の復習、理科基礎は全く触らんかったな。

AC 青石 英数以外の、他の教科はどう？

芝 うーん、社会に関しては高1・高2の時の蓄えがあったので、現代社会と日本史に時間をかけたのは最後の1カ月ぐらい。それはかなり大きかったですね。

川崎 社会は夏休みが終わってから。問題演習を始めた時に、日本史より現社の方が安定して点数を取れていて。新潟大の推薦も、その時に考えていた山口大の一般も、どちらも社会は1科目でよかったから、その時期に現社に絞ったな。

水崎 僕は引退してすぐにサテラインを(ACサテライン講座-共通テスト地理:宮地先生)。はじめのうち、受講は週1ペースでした。夏休みが終わってからは毎日のように。学校で地理を習い終わったのが冬休みの補習の時。共テまで全然時間がなかったので学校の授業もサテラインも、とにかく詰め込まないとだめでした。現社も2学期の期末テストの時までまだ進んでたので、社会系はその都度、真面目にやっておいた方がいいですね。習い終わってから復習するのは無理！



推薦入試について。

AC 青石 芝くんは推薦は考えてなかったの？

芝 評定は4.0ありました。和大の教育学部は推薦でも共通テストが必要で。どちらにせよ勉強するんだったら、志望理由書や面接の練習に時間を取られるのは嫌やったし、一般で勝負しようかな、と。評定の高い子が海南にはいっぱいいるから、校内選考のために色々準備している時間も無駄かなと思って。

川崎 俺は、それまで推薦なんか考えてなかったけど、1回でもチャンス多い方がいいのかな、という気になって、推薦を受けられそうな大学を調べたのは10月頃。そんな時期やったから、共テ免除の推薦はほとんど出願も終わっていて。出願書類や志望理由書の準備、小論文・面接の練習にかなり時間が必要だったので、普通の勉強はあんまりできなかったな。

AC 青石 少しずつ模試でも点数が取れるようになってきて。

川崎 そうそう。ACに来る前は英語リー

ディングも5割ぐらいいったけど、10月の模試で8割は取れるようになってきた。単語・文法をちゃんとするようにしたことと、時間配分を考えて何回も何回も共テ形式の問題を解いて、慣れてきたからかな。それ以降、点数が下がることはなかった。夏休みが終わってからは、ほとんど毎日ACに来て勉強してたな、集中できたし。

水崎 僕は12月に入ってからちょっとずつ上がってきて。6割届くかも、という感じで。でもそんな状況だったから、僕はもう開き直ったんですよ、「国公立大なんか現役で受かる方がおかしい」「夏から始めて、現役なんかで受かるわけない、芝さんがおかしい！」って(笑)。「あかんかったらまた来年受けたらいいし」と思ったら少し気も楽になって。プレッシャーでしんどい、ガチガチに緊張する、というのはなかったな。

受験生活を振り返って、一番しんどかった時期は？

水崎 11月ぐらいかな。推薦でみんな決まり始める頃。まだその時は、模試の点数も上がってなくて、もうやめたい、って何回も思いました。でも、そのぐらいから同じように国公立大を目指す友達と、朝の7時半からと放課後は学校で勉強して、それからACに来て22時頃まで。学校にもACにも、一般入試を目標にして頑張る友達がいたので環境に恵まれてたと思う。1人やったら多分無理やったな。

芝 僕は受験勉強をやり始めた8月頃。“勉強する”ということに慣れるまでがきつかったのと、ここからまだあと半年も勉強せなあかんのかって思って。あとは、共テの直前かな。

川崎 11月の初め。学校の共テ模試の点数が過去最悪やって。夏の勉強の成果が…という時期にその結果やったから、ほんまにやばいな、と思って。

AC 青石 共テ直前期や、受け終わった後はどう？

芝 12月は全然焦ってなかったですね。そのころ僕、数学10点台やったんですよ。逆に吹っ切ることができて、この数学をどうにかしようとしてももう無理、その分、理社に時間をかけて確実に取れるようにしよう、と。英語も安定して6-7割取れるようになってきてたし、和大の共テの配点は傾斜配点で社会と英語が高いこともあって。まあでも、共テ当日、数学が始まった瞬間、「終わった」と思ったけど。何にもわからないのやもん！(笑)

川崎 僕の場合は、まず共テ1週間前に歯が痛くなって、急いで歯医者に。それが治ったと思ったら、前日に熱が出て、ACにも行けず。だから点数がどうかとかより、体調不良でまともに力を出せなくなるのだけは嫌、とりあえず2日間ちゃんと受けたい、という感じやったな。で、試験が終わった後は、これ今やから言えるけど、正直、この点数やったら推薦受かったな、と思ってしまったな、完全に(笑)。

AC青石 え、その時からずっと言ってたよ？全然「今やから」ではないで？(笑)

芝・水崎 うん、ずっと言ってた(笑)。

川崎 まあ…だいぶ緩んでもたな(笑)推薦で不合格だった場合に受ける前期の出願校も、そこから立て直すのはもう無理かも、と思って、安全圏で考えたし。

芝 僕は自己採点の結果、和大はC判定。和大の合格最低点が例年通りであればギリギリ引っかけられるかも！という感じで。学校の面談では、A/B判定の大学にしてみるのはどう？と言われて。でもチャレンジしなかったことを後悔しなくなかったの、不合格ならもう1年頑張ろう、と腹をくくりました。合格発表はインターネットで見たんですけど、最初は自分でも信じられなくて。大学の掲示板を見てくれた直輝さん[山本直輝さん…海南高校硬式野球部/AC海南駅前卒・和歌山大学]からおめでとうってLINEが来て、そこで「あー、ほんまに受かったんや！」って。ほっとしましたね。

水崎 僕は出願先をずっと悩んでいて。出願した後も他の大学の倍率が気になったりして。でも、共テが終わったらやっぱり気持ち切れてしまっていて。二次は科目も少なくなったので、ACには来たけど共テ前から比べると勉強時間は結構減ってしまっていました。

もっとこうしておけば、ということとは？

芝・水崎 山のようにある！(笑)

芝 僕は、英単語・古文単語は高1・高2の時からでもちゃんとやっておけばよかったな、と思います。どれだけ忙しくても、寝る前にでも“ちょっと見る”ぐらいはできたな、と。日本史は、定期テストの勉強をガチでやってたから、助かりました。自分でしづらい文化史はサテライン(ACサテライン講座-共通テスト日本史:土屋先生)で教えてもらったことを覚えて。

川崎 古文・漢文はやり始めたのが遅かったから、それを早めにやっておけば



もっと完璧にできたかな。国語は得意科目だったから最低でも8割は取りたかったけど、本番では無理やったし。ほんまに「基礎固め」が大事やったな。

水崎 僕は社会かな。知識量が足りなすぎた！結局、ちゃんとやり始めたのは夏休みが終わってから。知識を入れるのに時間がかかりすぎたから、ほとんど演習できずに共テを受けることになって。夏休み、30分ずつでもやってたら、もう少し伸ばせたんちゃうかな、って。英語を伸ばしたかったからそこに時間をかけてたから社会・理科にあんまり時間を回せなかったな、と。芝さんの「社会は残り1カ月でいけた！」という言葉信じすぎた！！(笑)

芝 俺の場合は、やから！あてにせん方がいいで、って何回も言ったやん！(笑)

水崎 いい部分しか聞かんからね(笑)。苦手科目ってなかなかやる気にならない。無理やりやったところで、そこまで伸びへんやろうと思って。数学と地理はまだ興味があつたから、得点源にできるように時間をかけました。苦手科目は、頑張っただけ！という意識で。だから国語は、古文単語と漢文句法を覚えて、とりあえず古典だけでも、という感じでしたな。苦手科目にももう少し目を向けていれば、結果も違ったんかな、って。

ACの授業はどうだった？

水崎 久保田先生の授業、面白かったです。[ACクラスライブ-英語:久保田先生]文法の授業が多かったので、文法を扱う時間が長かったけど、公募推薦を受ける子も多かったので私大の問題も授業で扱っていて、文章を読む練習になりました。

芝 長文読むときに文法をわかってなかったら話にならんからな。文法をおろそかにしたら、単語はわかってても特殊な文法が出てきたら太刀打ちできない。僕も久保

田先生の授業で、文法の練習をたくさんできたのでよかったです。文章から見つけられるようになったので、一気に長文が読みやすくなったな。あと、EQ*(AC英語基礎力トレーニング講座『English Quest』)をやったのもほんまに大きかったな。それから速読聴英語も。共テの英語ってほんとにスピードが必要で。やり始めた頃は速く読もうとしても確認問題にほとんど正解できなかったけど、週2ペースで受けていくうちに長文を読むことに慣れてきて、スピードも正答率も両方を上げることができるようになってきました。単語のチェックから始まるから語彙力強化にもなったし、色々なテーマの文章に触られたのがよかったです。

水崎 EQは罰ゲームもあったから、受けなくてもいいように必死で覚えた！徳さん(ACクラスライブ-数学:徳山先生)はめっちゃ基礎からやってくれるからわかりやすかった。裏技もいっぱい教えてもらえたし。数学は好きだから、自分とは別の解法も知りたかったの、受けてよかったな、と思います。サテラインは地理[ACサテライン講座-共通テスト地理]を受けてました。地理はまともに勉強してこなかったの、引退して1から勉強しないといけなかったけど、基本的なこと全部教えてくれたので受けてよかったです。だんだん地理が好きになっていきました。共テで地理が必要な人は受けた方がいい！

芝 僕も、数学はライブ授業は付いていけないと思ったので、サテラインを受けていました。(ACサテライン講座-山本俊郎の基礎数学ⅠAⅡB)

川崎 俺はとりあえず問題を解く、という環境に身を置くことが必要で。数学は公式も全然覚えてなかったから、授業を受けて思い出したり、覚え直したりして、問題を解けるようになった。[ACクラスライブ-数学:徳山先生]授業があれば嫌でも問題を解いたり、覚えたりするけど。久保田先生の英語も同じで。(ACクラスライブ-英語:久保田先生)自力であそこまで文法を頭に入れ

られたか、と言われたら絶対やってない。自分一人やったら絶対無理やった(笑)

水崎 確かに。自分であの勉強は絶対できへんかったな。

大学生活・大学卒業後は？

川崎 成績上位者になって奨学金をもらう！というのを狙ってみようかな！今は警察官になりたいと思ってるから、犯罪心理の授業があれば受けてみたい。国語の教職も取れたら取りたいな、と思ってる。野球は、軟式とか草野球ならやりたいかな。まあ、何かスポーツはしておきたいのと、英語圏の国に留学もできたらいいな。

水崎 僕は色々資格を取りたい。職業を選べるようにしておきたいので。あと、海外旅行、パラオに行ってみよう！宮地先生[ACサテライン講座-共通テスト地理]が授業中、「パラオはいいぞー！」と言っていたので(笑)。

芝 僕はこれからは野球も趣味でやりつ

つ、交流関係も視野ももっと広げて色々なことを経験したい。1年間大学生活を過ごしてみて、僕らは対面授業も結構多かったんで、大学生って意外と忙しいんやな、って。でも、楽しいです。行動範囲が広がって自由も増えるし、友達と一緒にレポートを作ったり、結構この1年、あっという間でしたね。

後輩へのアドバイスを

川崎 今すぐ、今すぐしろ、としか言えない(笑)。先にやり始めて損することなんて一切ない！それと、目標は高めに設定した方がいいと思う。高くしておけば、自分の勉強の計画も高い方に向かっていくし、勉強に向かう気持ちが全然違うと思うから。

芝 周りをあんまり気にせず、自分をしっかり持って頑張してほしいかな、って思います。周りと比べずに、前の自分と今の自分を比べてやってほしいです。例えば、国公立大を目指していて、私大合格が決まった子を羨ましく思うこともあるかもしれないけど、その子はその子、自分は自分。あん

まり気にしない方がいい。

水崎 僕は、“環境”って大事なな、ってほんまに思った。学校、塾、nobinos(図書館)…利用できるものは全部利用して、自分が勉強できる環境を自分で作って、そこに身を置くということ。そして、理想の自分を追い求める、ということ。最低何点、ではなく理想を。それを追いつけることがモチベーションにもなるし。そこに向かって頑張ってもらいたいと思います。

対談内で発言のあった問題集・学校教材

■数学

*黄チャートチャート式解法と演習(数研出版)

*英文法・語法Vintage(いっすな書店)

■英語

*システム英単語(駿台文庫)

*英単語ターゲット1900(旺文社)

インタビューを終えて

 Academy Campus



ハードな練習で有名な硬式野球部に所属しながら合格を勝ち獲った芝くん・川崎くん・水崎くん、3名とも部活を引退してからACに入校してくれましたが、共通テストまでの期間、勉強に向かう集中力はすさまじいものでした。

芝くんは、強い意志を持ち、決めたことに対して絶対やり切る、絶対諦めないという想いが強い生徒でした。黙々と自習に取り組んだり、速読聴英語も休むことなく継続して受講してくれていました。受験に向けたイベント講座にも積極的に参加し、無駄のない勉強スタイルを作り上げてくれました。また、友達など周囲の生徒にも気配りができ、ともに切磋琢磨しながらメキメキと実力をつけてきてくれました。

川崎くんは、自己管理能力が高い生徒でした。「今日は休憩が長いな」と思った日もありましたが(笑)、一度自習室に入ったら、帰るまで出てこない、休憩時間、何か食べながらでも手を動かす、など自分をうまくコントロールし、調子がいい日・いい時間にとことんやりこむ！ということ徹底していました。試験が近づくとつれどどんどん得点が上がっていきましたが、川崎くんは基礎を固めることがいかに大切かを体現してくれたように感じます。

水崎くんは、入校時正直…国公立大はかなり厳しいのでは？と思ってしまうぐらいでした。(俊哉、ごめん!)なかなか点数に表れず、苦しい思いをする日も続きましたが、決して諦めず、周りに左右されず、自分の“理想”に向かってひたすら努力を重ねてくれました。EQや授業のチェックテストを全て高得点で合格する、出された課題を期日までに仕上げる、そういう“当たり前”のことをきちんとする、という真面目さも合格につながったんだと思います。

川崎くん・水崎くんは、受験科目をある程度絞り、得意科目を活かせる大学を志望し、努力を重ねてきました。AC入校時から考えると2人とも相当得点もアップし力を付けてくれました。『受験勉強は、早く始めるに越したことはない!』とインタビューでも話していましたが、部活引退後から、彼らのように鬼のように集中して勉強したとしても、5-7.8科目必要な大学に合格するのは難しいんだ、ということを改めて感じました。受験勉強を通して彼らの感じたことを後輩へのアドバイスとして、しっかり伝えていきます!これからの大学生活が充実したものであるよう祈っています!

ACカウンセリングスタッフ 青石 千映